

プロフィール	名古屋大学で地球環境学、国土学、環境情報学を学び、環境コンサルタントやシンクタンクで、アセスメント手法やGISの開発、国土・地域・環境計画などに従事した後、慶應義塾大学と中部大学で、空間情報科学や環境学の研究と教育に取り組んできました。現在は、地上や衛星による観測データなどの科学的なエビデンスに基づいて、地球を俯瞰的にデジタル化してみる「デジタルアース」が経済発展と環境問題を始めとした社会課題の解決には不可欠だと考え、地球上で起きる様々な自然現象や社会経済活動などをデジタルアースに組み入れて、現象のモデリングやシミュレーションを行い、将来に向けた持続可能な地域や地球環境保全のための研究をしています。また、環境省のEPO中部の運営や愛知県地球温暖化防止活動推進センター長を務めるなど、国や愛知県と協働して、地域の多様なステークホルダーとともに、持続可能な地域づくり、ローカルSDGsの達成に向けた活動を行い、「新しい実学」の創成をめざしています。
授業主旨	近年の環境汚染や気候変動にみるように、人類は自らの活動によって、生存基盤である地球を大きく変えつつあり、人新世という新たな地球史の時代区分も提起されています。地球規模で増大する自然災害や感染症の拡大など様々なリスクの連鎖は、人口構造の変化や地政学的リスクとともに経済社会に大きな影響を与えています。地域から地球の持続可能性を追求するには、学問分野の融合や社会の多様なステークホルダーの連携・協働が不可欠です。それには、地域から地球までの問題の全体像を俯瞰的にとらえ、これまでの地図や統計に加えて、衛星など新しい観測データを統合して、対応策を検討する情報基盤「デジタルアース」の活用が有効です。授業では、気候変動や少子高齢化などグローバルな大きな変動の姿をふまえて、これからの人と自然の関係や国土の利用の在り方を、具体的な地域課題を事例にデジタルアースで探求します。
実績 ※2024年度から 講師	【出前授業】 2024年度 7月 「SDGsからWell-beingへ」